

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

●奈良教育大学教育学研究科

「「地域と伝統文化」教育プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

分野横断的なプログラム共通コア科目「世界の中の奈良—伝統と継承・発信—」と、それを実践と結びつけるプログラム実践コア科目「伝統文化発信法」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを新たに開設し、深化科目として、本学大学院カリキュラムにすでに内包されている奈良の地域文化やその国際性に関する科目を、「地域と伝統文化」のコンセプトのもとに有機的に再構成した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

各専門的性格がより強い「伝統文化発信法」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲがそれぞれ理科教育、美術教育、国語教育・日本語日本文化教育の教科科目と位置づけられる一方、「世界の中の奈良」は教育内容学相互の関連を有機的に編み上げてゆく機能を持つ分野横断的な科目で、プログラムの共通コア科目であるとともに修士課程共通科目(選択)に位置付けることが検討されている。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

「世界の中の奈良」は、受講大学院生によるアンケート結果での高い評価にも示されるように、地域と伝統文化に関わる教科横断的な力量を育て、総合学習や校外学習に資するだけでなく、便宜的な教科の区分では分析しきれない総合性を持っている社会や環境の中で、豊かに生きる力、知恵を身につけることにつながっている。教育学研究科のコアカリキュラムにあって、教科横断的な教育内容学相互の関連を、立地や教育研究の伝統など当該大学院の条件に見合う形で追究することが、今後ますます求められてゆくという見通しを開くことが出来、その先駆例となり得た。